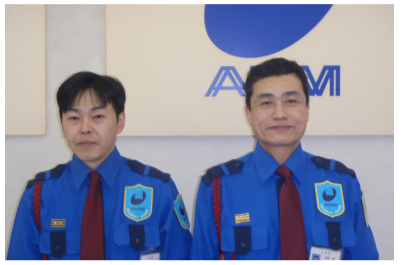


平成24年警備業協会
東北ブロック第一位受賞論文作品
警備員としての誇りと使命感
山田 渉



山田さん
指導教育責任者の論文で賞状が授けられた。自分
の立場で考え表彰に至りました。次回
も表彰を目指し精進していきたいと思
います。

今回の論文は、社長が常々おっしゃられている経営方針、社是を自分なりにかみくだき、理解し、日々の業務にあてはめた時どうなのか？を文章にしただけです。高く評価していただいた事は、私達ABMの姿勢が高く評価していただいたものと思います。

が防災という意味をしっかりと理解できていたでしょうか。お客様の「生命・身体・財産を守る」ということのできる警備員が我が社に果たして何名いるのか考えさせられます。今年三月に起きた東北地方の未曾有の大震災より、「想定外」という言葉が数多く聞かれるようになり、指導教育責任者として現任研修等や日々の業務に従事している時などを利用して常に地震や火災、施設への侵入事案等は起こりうる事なのだと言いかせています。「何も無いだろう」とか「起こるわけがない」という考えがとつきの判断や行動に強く影響を及ぼしかねません。

危険予知、災害防止などとは出たはるのですが、現任研修の調査結果では有事の際に本当に適切な対応が取れるのか不安が残る警備員も実際にいる現状です。以上の事から警備業に対する社会からの期待度は高まっています。一人一人の警備員としての資質は現状の期待度と反対に、より一層のプロ意識の向上が必要なのではと考えます。

次に、警備員の地位が本当に向上しているのか。という問いには私自身疑問の方が強く感じられております。理由は、いつかお客さまが、一つに警備員の不幸事が発生して減少してない点にありませぬ。我々の仕事は、社会やお客さまに信頼され信用して頂かなければ成り立ちません。一つの不祥事案が起これば即座に「やっぱ警備員か」と世間の目が一点に我々に集まるといえます。他の業種よりも警備員の服装は世間からも注目される事実を認識し、勤務時は勿論のこと出勤時や休日なども行動や言動には、十分注意しなければならぬのです。以前会社の部下に質問を受けた事がありました。内容は出勤時の服装に関しての質問でした。夏にショートパンツで出勤してはだめなのですか？との問いに対しては、私はその警備員の外見年齢、職場の業種などを考えて適切ではないと答えました。これが他の業種なら通勤時の服装まで気にしなくてもさほど仕事に影響はないと思うのですが、警備員という職種の場合、通勤時派手な服装や髪の色、髪の色などいろいろと乱れていても世間から受ける印象が悪くなります。強いてはその警備員が所属する会社で批判の対象になる事を警備員は考えていなければなりません。

平成24年
山形県ビルメンテナンス協会
安全衛生大会論文の部
優秀受賞作品
安全と危険
吉野 裕美
昨年、私たち日本人は東日本大震災を経験しました。状況など大違っても、否が応でも一人ひとりが安全というものを認識することになりました。私の職場では地震対策として、各所にその場での対応（あわてず、その場で、身を守りなど）を掲示し、緊急地震速報を受信したら非常口を開ける・震度4以上で館内放送を流す・状況に応じて避難誘導を行うなどの行動をマニュアル化しています。

「防災」は個人だけでは成り立ちません。社員一人ひとりの協力が必要で、職場の人間関係も重要です。円滑な関係であってこそ、何でも報告し・連絡し・相談できるからです。また話をすることで、自分では普段見ない場所や気付かなかった事がわかり、視野を広く持つことが出来るようになります。

私が十年前に新任教育を受けた時に最初に教わった事です。そして不祥事案は絶対起こしてはならない事も徹しく教えられました。以来、私は地元の大規模商業施設に施設警備員として配属され、今日まで常駐させていただいております。

社会人になってから、製造業の世界に身を置いてきた私にとって、新任研修で教わった「他人の生命・身体・財産を守る」ということに、強烈な緊張を感じた事を今も覚えています。しかし、勤務当初はそれまでの製造業の効率重視とは真逆に感じられ、自分の存在に疑問を感じた事もありました。出入管理や手荷物検査は従業員から嫌がられる事も多く、またお客様からは施設に対するクレームを直接言われる事も多々あったからです。その様な中で職務を続けていくうちに、施設を正常に運営する上で重要な裏方の仕事をしている事に気付きました。

平成24年警備業協会
山形県優秀賞
受賞論文作品
警備員の地位向上に思う
揚妻 貞二
今回この題を見たときに感じた事は、警備員の地位が向上しているのか。又は、地位が向上してないのかを危惧している論文なのか、と率直に感じました。この事を踏まえ、両方の観点から私なりの意見を述べたいと思います。

まず警備員の地位が向上しているのかということですが、全国の警備業全体から見れば近年の我々警備員に対する仕事の需要が増えているのは確かではないでしょうか。犯罪が凶悪化している中、お客様も火災や盗難で自社の資産や社員の安全等を真剣に考えるようになり、火災や盗難のリスクを考えて我々警備員の重要性を改めて見直すようになってきているのだと考えます。

私が警備員指導教育責任者の資格を受けて約五年になりますが、我が社でも警備員の地位が多少でも地域や社会に貢献できているのを感じています。それはどうしてかと言いますと、お客様からの警備員に対する要望や付帯業務の増加に表れているからです。当初は基本的な巡回や出入管理など経験がさほどなくても少しの見習い期間で仕事が出来ました。しかし近年はパソコンを使用した出入管理や世界中のテロへの警戒に反応し、不審者、不審物等にもより一層の警戒が必要になってきています。

「警備員の地位向上に思う」の私の意見は、基礎を徹底的に指導し、お客様に対し全員が同じレベルを提供できるまで信頼を得、経験を積んでやっとなりに信頼されるものではないかと考えています。最も大切な事は危険を察知し、速やかに対応できるような常日頃心構えておくこと、そのために必要な事は三つあると考えます。

一つ目は、いつでも、どこにでも危険が潜んでいるということに意識し、たとえわずかな危険であってもその結果を具体的に考えてみる癖をつけること。例えば、廊下が濡れていたら、「危ない。」と危ないかというところ、滑って転んで頭を打ってしまったかもしれない。腰を痛めてしまったかもしれない。腰を痛めてしまったら、その前の廊下を放置せず、すぐに拭くことができるはずで。

二つ目は、自分は大丈夫という考えを持たないこと。防災の事例やヒヤリハットについて他人事と思わず、自分は常日頃どう行動しているか？自分が置き換えて気をつけられることではないか？を必ず考える。そうしなければ、他人の経験を自分の中に蓄積していくことはできないから。

それ以来、私は自分の仕事にプライドを持ち、自分の果たすべき役割をしっかりと見据えて、職務に励んでまいりましたが、今私が一番危惧しているのは警備員による不祥事です。平成二十二年十二月末現在、全国九千十業者、五十三万六千六十八人の警備員数という資料が出ています。一人の不祥事は本人の問題だけでなく、会社、同僚、家族そして業界全体の信用の失墜につながる警備員です。信用が何より大切な警備員にとって不祥事と仕事のミスは一件もあってはならないのです。勤務先における窃盗行為やパワハラ、セクハラ等は勿論のこと、プ

ライベートにおいても盗撮等の迷惑行為は警備員と言っただけでメディアに取り上げられ、業界は大きな痛手を受けています。このような事を言う全員が「分かってはいる。当然だ」というに違いない。案は起こり続けているのです。なぜ発生するのでしょうか。私が思うには

一、業務のマンネリによる資質の低下
二、同僚、相勤者による相互チェックの不足
三、半期ごとの現任研修の内容不足
四、元々の本人の資質不足と努力不足

日々の仕事に流され、マンネリ化する事は一番危険な事です。オーナー側の要求と期待は日々高まっており、現状で満足していることなど許されたいはず。ただ自分一人でモチベーションを維持する事が困難な事も事実です。その時大切なのが、同僚や相勤者による相互チェックです。互いの仕事内容の良い点、悪い点を指摘する事は自己啓発に繋がります。そして会社は形式的な現任研修に終わることなく、座学、実技の内容を吟味し、警備員の資質の向上に全力を注ぐことが必要になってくると思います。

私達警備員の仕事は、世間では誰でもできるような軽視されている感もありますが、資格は国家資格です。私達はもともと自分の仕事に誇りとプライドを持つべきです。そしてサービス業としての警備員である事を認識し、他のサービス業の人たちの良い点はどんどん見習うべきです。その上で自分自身課せられた使命をもう一度よく見つめ直し、果たすべき事を明確にし、オーナーからの期待以上の仕事をするために、自分を磨く事が一番の急務だと思います。

「警備員の地位向上に思う」の私の意見は、基礎を徹底的に指導し、お客様に対し全員が同じレベルを提供できるまで信頼を得、経験を積んでやっとなりに信頼されるものではないかと考えています。最も大切な事は危険を察知し、速やかに対応できるような常日頃心構えておくこと、そのために必要な事は三つあると考えます。

一つ目は、いつでも、どこにでも危険が潜んでいるということに意識し、たとえわずかな危険であってもその結果を具体的に考えてみる癖をつけること。例えば、廊下が濡れていたら、「危ない。」と危ないかというところ、滑って転んで頭を打ってしまったかもしれない。腰を痛めてしまったかもしれない。腰を痛めてしまったら、その前の廊下を放置せず、すぐに拭くことができるはずで。

二つ目は、自分は大丈夫という考えを持たないこと。防災の事例やヒヤリハットについて他人事と思わず、自分は常日頃どう行動しているか？自分が置き換えて気をつけられることではないか？を必ず考える。そうしなければ、他人の経験を自分の中に蓄積していくことはできないから。

平成24年
山形県ビルメンテナンス協会
安全衛生大会標語の部
優秀受賞作品
伊藤明美
思いがけず優秀賞をいただきました。驚きと感激でいっぱいです。事故は気持ちに余裕のない時に起きることが多いと思えます。これが大丈夫かな？と常に作業や行動を確かめる心のゆとりを持つことが安全につながるという思いで、この標語を考えました。これからも落ち着いた丁寧な作業で無災害を目指したいと思います。

平成24年
山形県ビルメンテナンス協会
安全衛生大会標語の部
優秀受賞作品
吉野 裕美
入賞することが出来、とても光栄に思います。日々考えている事を書かせていただきましたが、賞をいただいた事で「事故0」の継続に励んでいきたいと思えます。

「防災」は個人だけでは成り立ちません。社員一人ひとりの協力が必要で、職場の人間関係も重要です。円滑な関係であってこそ、何でも報告し・連絡し・相談できるからです。また話をすることで、自分では普段見ない場所や気付かなかった事がわかり、視野を広く持つことが出来るようになります。

「防災」は個人だけでは成り立ちません。社員一人ひとりの協力が必要で、職場の人間関係も重要です。円滑な関係であってこそ、何でも報告し・連絡し・相談できるからです。また話をすることで、自分では普段見ない場所や気付かなかった事がわかり、視野を広く持つことが出来るようになります。

「防災」は個人だけでは成り立ちません。社員一人ひとりの協力が必要で、職場の人間関係も重要です。円滑な関係であってこそ、何でも報告し・連絡し・相談できるからです。また話をすることで、自分では普段見ない場所や気付かなかった事がわかり、視野を広く持つことが出来るようになります。

「防災」は個人だけでは成り立ちません。社員一人ひとりの協力が必要で、職場の人間関係も重要です。円滑な関係であってこそ、何でも報告し・連絡し・相談できるからです。また話をすることで、自分では普段見ない場所や気付かなかった事がわかり、視野を広く持つことが出来るようになります。

「防災」は個人だけでは成り立ちません。社員一人ひとりの協力が必要で、職場の人間関係も重要です。円滑な関係であってこそ、何でも報告し・連絡し・相談できるからです。また話をすることで、自分では普段見ない場所や気付かなかった事がわかり、視野を広く持つことが出来るようになります。

「防災」は個人だけでは成り立ちません。社員一人ひとりの協力が必要で、職場の人間関係も重要です。円滑な関係であってこそ、何でも報告し・連絡し・相談できるからです。また話をすることで、自分では普段見ない場所や気付かなかった事がわかり、視野を広く持つことが出来るようになります。